

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 9. No.6 2007年3月15日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2007 CNA Report Japan. All rights reserved.

ニュース項目

蝶理情報システム、上海威速信息科技有限公司と業務提携、中国向け Web 会議システムの提供を開始



業務提携契約時の模様（中国 上海市内：ラディソン上海ニューワールド：2007/02/08）

中央左側：上海威速信息科技有限公司：総経理 李永氏、中央右側：蝶理情報システム株式会社 代表取締役社長 梅澤英之氏

蝶理情報システム株式会社(大阪府大阪市)は、上海威速信息科技有限公司(中国上海市)は、2月8日、蝶理情報システムの Web 会議システム「IC³(アイシーキューブ)」の中国国内販売で業務提携を行った。

上海威速信息科技有限公司は、中国では、ソフトウェア型ビデオ会議システム「V2 Conference」で国内 Web 会議市場ではトップベンダーだが、IC³を現地日系企業向けに代理販売するとともに、自社ブランド「UMeeting(ユーミーティング)」として販売も行うことで、同社の製品ラインナップの強化を図る。

そして、蝶理情報システムと上海威速信息科技有限公司の両社は、Web 会議製品の提供及びサポート、また中国国内におけるコラボレーションツールのビジネスモデル開拓において協力していく。

また、今回の提携を契機に、蝶理情報システムとしては、

中国国内の中国企業及び外資企業に対する製品提供が可能となり、現地ソフトウェア企業との提携なども視野に中国市場向けの事業を拡大していく考え。

上海威速信息科技有限公司は、北京威速信息科技有限公司が開発する「V2 Conference」の上海事務所として、V2 製品の代理販売及び構築、サポートを実施している。設立2004年4月。

(IC³ 関連記事：CNA レポート・ジャパン Vol.8 No.22 2006年8月31日号等)

SOBA プロジェクト、オープンソースを基調とした SOBA フレームワークをベースに開発された P2P 型 WEB 会議 ASP サービス開始



SOBA mieruka (ソーバ・ミエルカ)

株式会社SOBAプロジェクト(京都府京都市)は、高度なセキュリティを備えた P2P 型 WEB 会議 ASP サービス「SOBA mieruka(ソーバ・ミエルカ)」を2006年12月より開始。SOBA プロジェクトは、2006年3月15日より無料のWEB 会議サービス「SOBA CITY(ソーバ・シティー)」を開始しているが、SOBA mieruka は、有料版になる。

SOBA CITYとSOBA mieruka は、SOBA フレームワーク

をベースに開発されているシステム。SOBA フレームワークは、2001 年に大学や民間企業による産官学連携研究から発足した SOBA プロジェクトに端を発する。SOBA の概念は、1999 年に京都大学やオムロンなど産学官の主要な大学、企業が集ったブレインストーミングが発端。それが 2001 年に、京都大学ほか5大学、そしてオムロン株式会社(京都府京都市)などで財団法人京都高度技術研究所内に発足することで SOBA フレームワークの開発が始まった。その後 2004 年産官学プロジェクトとして終了とともに、オムロンなどを主要株主とする株式会社 SOBA プロジェクトが設立され、SOBA CITY、SOBA mieruka、SOBA フレームワークのライセンス供給、アプリケーション受託開発などを柱に事業を展開している。

SOBA の略は、Session Oriented Broadband Application(セッション・オリエンテッド・ブロードバンド・アプリケーション)。SOBA フレームワークは、オープンソースを基調とした考えをもっており、P2P 通信における必要な基本機能を提供することで、ビジュアルコミュニケーションをベースとしたアプリケーションの開発が、OS プラットフォームに関係なく開発が行える。

WindowsOS、LinuxOS を搭載した PC、PDA、その他全ての端末であるいは混在環境で動作する。SOBA フレームワークによって、遠隔対面販売システム、遠隔相談システム、遠隔医療システム、遠隔教育システムなどの開発実績がある。

「SOBA フレームワークは、独立性の高いレイヤ構造と API の定義を提供しており、アプリケーション構築がしやすい柔軟なフレームワークである。システムインテグレーターとのプロジェクトが多数進んでいる。今後当社としてもビジュアルコミュニケーションの普及拡大に貢献したいと考えている。」(SOBA プロジェクト 東京支社 経営企画室長 小柴 眞氏)

SOBA CITY、SOBA mieruka とも SOBA フレームワークをベースに開発されているため、P2P 方式を採用。P2P 方式のため、通信のためのサーバは不要となっている。「Web 会議

システムは一般的にクライアントサーバ型で開発されているが、当社の Web 会議システムは、P2P 型とユニークな通信方式をとっている。」(同 小柴氏)

暗号化はブラウザでサポートされている SSL 方式で、SOBA CITY は、128 ビット、そして SOBA mieruka は、より強化した 256 ビットに対応。同時接続数や同時参加会議数について基本的に制限はないが、回線の帯域などの状況によって、ADSL 回線の場合は、5 人～10 人程度、光回線の場合は、20 人程度が同時に 1 つの会議室に参加できる。

機能としては、カメラ映像、テキストチャット、ホワイトボード、Web ブラウザ共有、Windows アプリ共有といったウェブ会議セッションでの機能は共通して提供されているが、ファイル共有については、有料版の SOBA mieruka のみで提供されている。



DV カメラ、スピーカーマイク、ディスプレイ等との接続使用例

SOBA CITY で提供されていないが、SOBA mieruka で提供されている機能としては、まずカメラの選択肢の違いがある。SOBA CITY では、USB カメラのみサポートしているが、SOBA mieruka では、USB カメラ以外にも、高精細 DV カメラ、キャプチャーカードに対応しているため外部カメラなどを接続することも可能。「SOBA には、制限がない。あらゆるビジュアルコミュニケーションに対応したいという考えからフレームワークを考えて開発した。たとえば、カメラについては CPU 等次第だが、いくつでもつなぐことは可能な仕様だ。」(同 小柴氏)

またカメラ表示サイズは、SOBA CITY の 1 倍、1.5 倍に対応しているが、SOBA mieruka は、1 倍、2 倍、4 倍、無制限となっている。その他で、SOBA mieruka のみでサポートしている機能として、ファイル共有、プロキシ・中継選択、LAN 内通信機能、プラグイン機能(機能拡張用)、カメラフローティング表示などがある。また、SOBA mieruka の管理機能としては、グループ機能、チーム機能、利用状況出力機能があるが、これらは SOBA CITY ではサポートされていない。

SOBA CITY は、気軽に無償で WEB 会議を行える一般公開型ツールを提供することで、ビジュアルコミュニケーションの導入の敷居を下げるのが目的。それに対して SOBA mieruka は、より高度なセキュリティ暗号化、会議セッションにおける機能、ユーザープロフィールの管理をグループ内に制限(SOBA CITY ではプロフィールは一般公開)、管理機能などを提供することで、企業での用途をより意識したシステムとなっている。

日立情報システムズ、VoIP と IP テレビ電話ができ、通話録画も行えるビジネス向けコミュニケーションツールを発売



NetTouch (ネットタッチ)

株式会社日立情報システムズ(東京都品川区)は、インターネットに対応した、ソフトウェアタイプのビジネス向けビデオ会議システム「NetTouch(ネットタッチ)」を2月より発売。

NetTouch は、相手のオンライン、オフライン状況を確認できるプレゼンス(在籍確認)を確認できる仕組みを提供している。

オンライン時の状態表示は、使用可能、取り込み中、アイドル状態の3種類で、オンラインの相手をマウスでクリックすることで、その相手と音声による通話あるいは、テレビ電話が行える。相手が不在で着信をとれない場合は、ボイスメールによりメッセージの録音が可能。

テレビ電話での多地点接続は最大7名までサポート。音声の電話では、ASP サービスでは最大10名までだが、パッケージ販売、SIサービスで導入の場合は、契約ライセンスに準じて20または50名となる。

NetTouch は、電話、テレビ電話機能の他に、資料共有、画面共有、ホワイトボード、チャット、ファイル送受信などの機能をもつ。さらに、システムの運用管理者向けの機能も提供している。

セキュリティについては、SSL 暗号化通信に対応。また、通話ログ・操作ログの記録・再生、利用グループ/ユーザー単位でのアクセスポリシー設定といった管理機能等、ビジネス向け製品として充実した機能を持つ。言語は、日英中韓4カ国語で表示可能。

ASP サービスとしては、初期費用10ユーザー10万円(追加10ユーザー単位)には、ユーザー登録の他に、Webカメラ及びヘッドセット、管理者向けのオンライントレーニング(半日程度1回)が含まれる。月額利用料は、10ユーザー28,000円(追加10ユーザー単位)。ログ容量5GB(約80時間テレビ会議記録が可能)、ヘルプデスクサポートがつく。

パッケージ販売で購入した場合は、年額のソフトウェアライセンス料で20通話48万円、50通話で96万円。登録ユーザー数の制限なし。サポート、メンテナンス費含むが、サーバ構築、サーバ運用代行は別途費用がかかる。

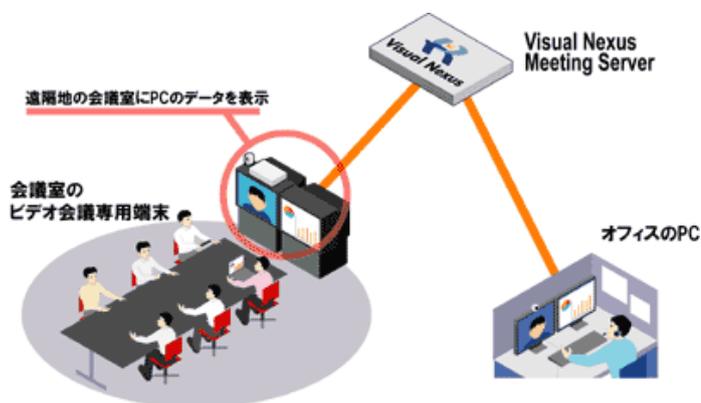
日立情報システムズでは、短期間、低コストで導入できるASPサービスとして中堅・中小企業向けに展開するとともに、大規模導入では、ASPサービスあるいはパッケージ

販売、SI サービスで提供する。2009 年度(2010 年 3 月期)までの 3 年間で、累計で 10 億円の売上を目指す。

NetTouch は、米 Oridus 社(カリフォルニア州)が開発したソフトウェア製品を日立情報システムズが国内展開するもの。

2 月 7 日から 9 日まで東京ビックサイトで開催された日経 BP 社主催 Net&Com 2007 の IP コミュニケーションパビリオンにて NetTouch を出展した。

TCB テクノロジーズ、Visual Nexus の新バージョンを発表、H.239 データ共有と LDAP/Active Directory に対応



専用端末(左)と Visual Nexus(右)との H.239 データ共有

TCB テクノロジーズ株式会社(東京都港区)は、PC 向けのリアルタイムコミュニケーションツール「Visual Nexus(ビジュアルネクサス)」の新バージョン Visual Nexus v3.2 を発表。

Visual Nexus v 3.2 では、ビデオ会議専用端末で採用されているデータ共有機能(H.239)と、LDAP 及び Active Directory などの認証システムに対応した。

H.239 のデータ共有機能に対応することで、Visual Nexus は、H.239 をサポートしたビデオ会議専用端末とデータを共有しながら遠隔会議を行うことができる。

専用端末は従来メーカー毎独自のデータ共有機能方式をそれぞれ持っていたが、2003 年に ITU-T(国際電気通信連合 電気通信標準化部門)においてビデオ会議の映像に加えて PC のデータ画面などを相手に表示するための手順

として標準化(H.239)された。H.239 をサポートした専用端末であれば、メーカーが異なってもデータ共有が行えるようになってきた経緯がある。それに対して、パソコンタイプのビデオ会議システムにはデータ共有機能が独自に内蔵されていたが、専用端末が持つデータ共有機能との互換はなかった。そこで、今回 Visual Nexus が、専用端末で採用されている H.239 を実装することで、Visual Nexus と専用端末間でのデータ共有が行えるようになった。

次に、今回の新バージョンで対応した LDAP 及び Active Directory などの認証システムに対応することで、ユーザ管理の一元化や認証の強化が行えるようになった。たとえば、Visual Nexus が持つデータベースと企業内にある LDAP/Active Directory が同期することで、Visual Nexus のデータベースが、LDAP/Active Directory からユーザ個人情報をインポートしそれをデータベースに反映させるとともに、LDAP/Active Directory で直接ユーザ認証を実行できる。

NEC エンジニアリング、USB 型マイク・スピーカー VoicePoint mini、Windows Vista、外部マイクなどに対応



VoicePoint mini (ボイスポイント・ミニ)

NEC エンジニアリング株式会社(東京都港区)が開発、販

売するマイク・スピーカが一体となった、USB 接続卓上型エコーキャンセラ付ハンズフリーマイクスピーカ「VoicePoint mini (ボイスポイント・ミニ)」をアップグレードした「AEC-1a」型を発表。

外観は変わらないが、Windows VISTA に対応するとともに、オーディオテクニカ製可変指向性バウンダリーマイクロホン AT9750)が接続可能。集音範囲を広げる。また、ボリュームに音量目盛りをつけた。

USB ポートがないパソコンへの接続のためのアナログケーブル付き。携帯電話接続ケーブル「AEC-1-C2」はオプション。携帯電話と接続することで VoicePoint mini を携帯電話のスピーカーマイクとして使用できる。

(関連記事:CNA レポート・ジャパン Vol. 6, No. 20 2004年 12月 15日号)

ポリコムジャパン、サービスプロバイダー向け、IMS に準拠した次世代会議コラボレーションソリューションを今年前半に提供開始予定

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、IMS 戦略を発表。IMS とは、IP マルチメディア・サブシステム(IP Multimedia Subsystem)で、NGN(次世代ネットワーク)を実現する中核的な技術。

映像や音声などのリアルタイム通信が求められるアプリケーションを、IP をベースとするパケット・ネットワーク上でも提供できるように 3GPP(第3世代移動体通信システムの標準化プロジェクト)で標準化されたアーキテクチャで、大規模で高品質な多地点遠隔会議向けの技術要件に基づいている。

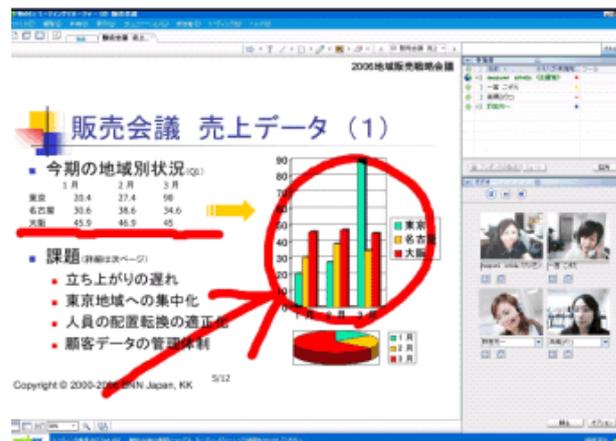
IMS に製品が準拠することで、ポリコム製品を使うサービスプロバイダーは、会議コラボレーションサービスを提供する上で必要な、設計・機能開発、拡張性、耐障害性、システムアップグレードなどの面でより迅速な対応が行えるとともに、次世代の会議コラボレーションサービスを包括的に提供できるための、コラボレーションサービスとその他のサービスとのシームレスな連携や、端末や場所にかかわらずネットワー

クに対して透過的で独自のサービスを開発できる環境が可能になる。

準拠した製品は、SIP をサポートする遠隔会議およびコラボレーション向けアプリケーションサーバー、アプリケーション開発環境、会議用メディアサーバー、複数のユニファイド会議向けアプリケーションが含まれる。

ポリコムは、この IMS アーキテクチャに準拠した製品を 2007 年前半に発売する予定。

ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン、SaaS モデル Web 会議サービスの最新バージョンを発表、高音質 VoIP で最大 7 同時通話対応等



WebEx Meeting Center(ウェブエックスミーティングセンター)

ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン株式会社(東京都港区)は、同社が提供する SaaS モデルの Web 会議サービス「MeetingCenter(オンライン会議)」、「Training Center(研修・トレーニング)」、「Sales Center(営業支援)」、「Event Center(オンラインイベント)」、「Support Center(リモートサポート)」の機能強化や使いやすさの向上などを行った。

今回の最新バージョンでは、まず使いやすさの向上としては、クイックスタートページの改善や E メールテンプレート機能の強化、共有ドキュメント/文書の表示方向の変更が可能になった。機能強化の点では、Windows Vista や Intel Mac に対応、また、Microsoft Internet Explorer7、

Firefox2.0の最新ブラウザをサポート。また、Support CenterとSales Centerを除く他のサービスで、VoIPの同時通話数が7本に増加した。

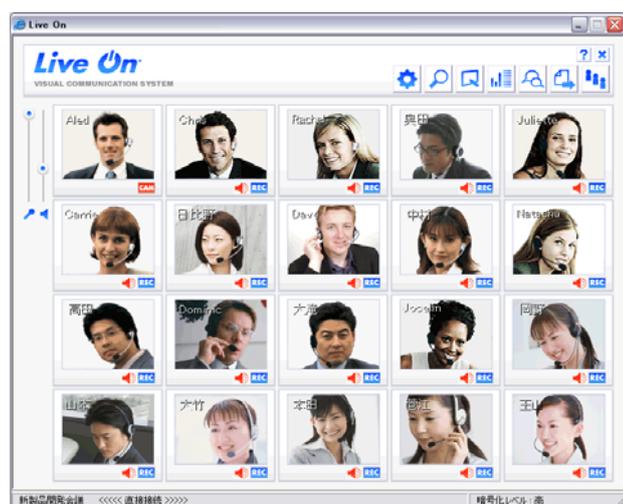
個別のサービスにおける機能強化については、まず、Training Centerでは、ビデオ映像の表示数が4倍に増加。

Support Centerでは、リモートサポートの接続速度が50%向上しより快適な動作環境が提供できるようになるとともに、VoIPも利用可能になった。さらに、クラッシュ時などに備えたセルフヒーリング(自己修復)機能の搭載やRemote Access Agentにより詳細なログデータの自動取得が可能となった。

Sales Centerでは、ポータルサイトの設定や内容のコピーが出来るようになった。

ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパンは、米WebEx Communications社の日本法人。ワールドワイドのWeb会議市場では64%の市場シェア、世界に28,000社以上の導入顧客を持つ。同社のWeb会議サービスは、専用のグローバルネットワークWebEx MediaTone上で提供されている。(関連記事:CNAレポート・ジャパン Vol.9 No.2 2007年1月20日等)

ジャパンメディアシステム、ASP版Live On Ver.4.0をリリース



Live On(ライブオン)

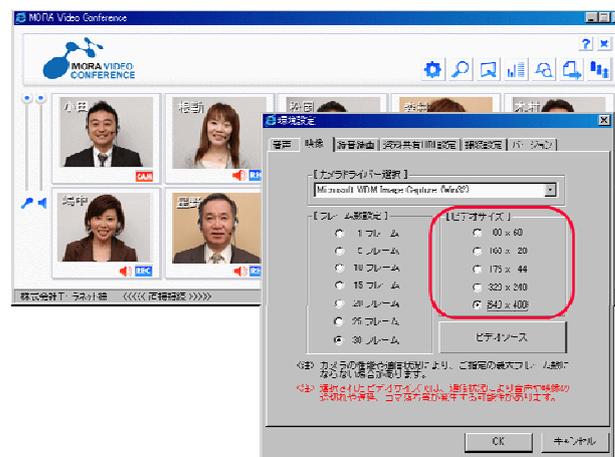
ジャパンメディアシステム株式会社(東京都千代田区)は、インターネットテレビ会議システム「Live On(ライブオン)」Ver.4.0 ASP版を3月3日から販売開始した。

Live On Ver4.0 ASP版で提供される新機能は、(1)ビデオサイズ640x480選択の追加。環境設定画面から選択可能なカメラ画像の解像度に640x480を追加、(2)資料共有の機能追加、(3)共有資料をアップロードした際のURLを非表示することでセキュリティを強化、(4)強制退室機能の追加、(5)Windows Vistaに対応。

Live On Ver.4.0のイントラパック版(Ver. 4.0i)については2月5日に既に発売されている。

(関連記事:CNAレポート・ジャパン Vol.9 No.4 2007年2月15日号等)

モーラネット、MORA Video Conference Ver4.0を販売開始



MORA Video Conference(モーラビデオカンファレンス) - フレーム数設定やビデオサイズ(解像度)設定を行う画面 - 640x480を選択している

株式会社モーラネット(東京都港区)は、同社のASP型Web会議サービス「MORA Video Conference Ver4.0(モーラビデオカンファレンスバージョン4)」を3月3日より販売開始。

新たなバージョンで追加された新機能としては、(1)映像解像度が640x480に対応、(2)強制退室機能の追加、(3)資料共有の描画画面を画像形式のファイルに保存できる機能の追加、(4)資料共有時、共有ファイルをアップ

ロードした際にアップロードした URL をセキュリティのため表示しないようにした。

MORA Video Conference は、ジャパンメディアシステムが開発した Live On をベースに ASP サービスとして提供されている。今回のバージョンアップは、基本的には、Live On Ver4.0 ASP 版に準じた内容となっている。

(関連記事:CNA レポート・ジャパン Vol.9 No.4 2007 年 2 月 15 日号等)

ウィルコム、ウィルコム沖縄、パナソニックコミュニケーションズ製 W-SIM 搭載会議用スピーカフォンを発売開始

株式会社ウィルコム(東京都港区)と株式会社ウィルコム沖縄(沖縄県那覇市)は、パナソニック コミュニケーションズ株式会社製会議用スピーカフォン「KX-TS745JP」を 3 月 29 日より販売すると発表した。

KX-TS745JP は、ウィルコムの PHS 通信サービス向けの超小型通信モジュール「W-SIM(ウィルコムシム)」に対応しているため、一般の電話回線がない場所でも、遠隔地との電話会議が行える。外部用マイクの接続が可能。SD メモリーカードスロットを搭載しているため、長時間録音が出来る。

音声定額サービス「ウィルコム定額プラン」へ加入すると、070 から始まる電話番号への通話が無料で利用でき、W-SIM 契約を行っている KX-TS745JP 同士、または PHS と料金定額で電話会議が行える。

KX-TS745JP は、ウィルコムストア並びにウィルコム取扱点にて販売する。価格は、120,750 円(税込み)。W-SIM については、別売り。

ウィルコムでは、2005 年 11 月に開始した、最大 48 人に対応した電話会議サービス「AIR-CONFERENCE(エアークンファレンス)」も提供している。

展示会レポート

NET & COM 2007

日経BP社主催

2007 年 2 月 7 日 - 9 日

東京ビックサイト

<http://itpro.nikkeibp.co.jp/netcom/index.html>

東京ビックサイトで開催された NET & COM 2007 は、開催3日間で 71,000 人以上の来場者が参加し盛況のうちに閉幕した。

会議システム関連は、HDテレビ会議、Web 会議、電話会議サービスなどの企業が IP コミュニケーションパビリオンを中心に集まったが、今回CNAレポート・ジャパンとして取材した出展企業をレポートする。(あいうえお順)

>NEC エンジニアリング株式会社



NEC エンジニアリング株式会社(東京都港区)は、USB タイプのハンズフリーマイクスピーカ「Voicepoint mini」と「Voicepoint EX」を展示。Voicepoint mini は、あらたに、Windows Vista をサポート。オーディオテ

クニカ製外部マイクに対応し、ボリュームつまみに 1 から 10 までの目盛りがついた。また、USB ポートがない、古いタイプの PC と接続するためのアナログケーブルを同梱。Voicepoint mini と携帯電話を接続する専用のケーブルをオプションで提供。Voicepoint を携帯電話機のスピーカマイクとして使える。

>株式会社情報工房



株式会社情報工房(東京都中央区)は、同社が提供する Web 会議システム「IVI-COMPO(アイビーコンポ)」と、そのIVI-COMPO を活用したヘルプデスク向けソリューションを展示。また、ネットワーク監視・

管理ツール「NetCrunch(ネットクランチ)」、パケットアナライザ「OPNET ACE(オブネットエース)」も紹介。同社ではTANDBERG 社ビデオ会議システムも提供しており、NetCrunch や OPNET ACE などと組み合わせ効率的なビデオ会議ネットワークの監視や管理が行えるソリューションを提供している。

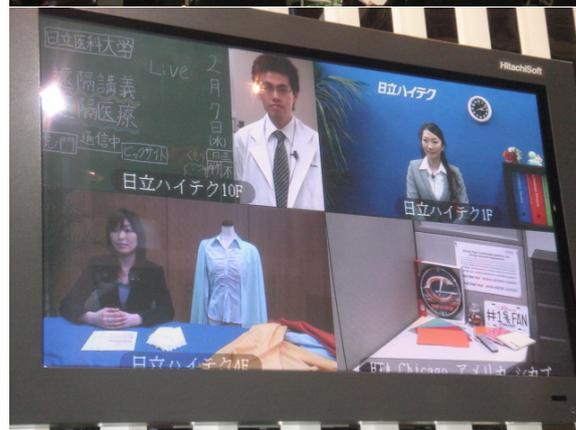
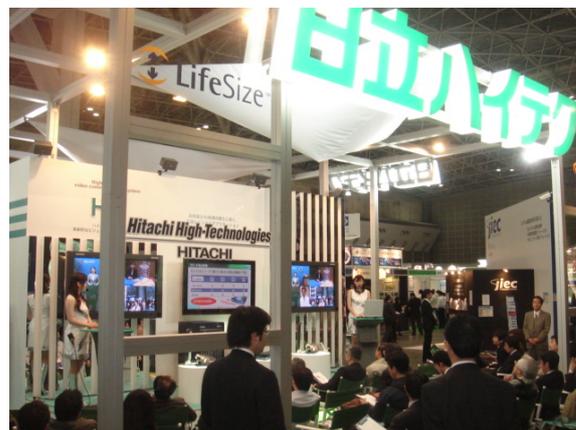
>株式会社日立情報システムズ



株式会社日立情報システムズ(東京都品川区)は、インターネットに対応した、ソフトウェアタイプのビジネス向けビデオ会議システム「NetTouch(ネットタッチ)」を2月から発売。NetTouch は、電話、テレビ電話機能の他に、資料共有、画面共有、ホワイトボード、チャット、ファイル送受信などの機能をもつ。さらに、システムの運用管理者向けの機能を提供。

NetTouch は、米 Oridus 社(カリフォルニア州)が開発したソフトウェア製品を日立情報システムズが国内展開するもの。

>株式会社日立ハイテクノロジーズ



株式会社日立ハイテクノロジーズ(東京都港区)は、LifeSize 社、Codian 社の各種ビデオ会議システムを展示。LifeSize 社の HD ビデオ会議端末「LifeSize Team」と Codian 社の HD 対応 MCU「Codian MCU 4500」を使い会場と同社本社ビルを IP ネットワークで結び多地点接続デモを実施。LifeSize 社は、海外で最近 195 台や 80 台規模の HD ビデオ会議システムの大型導入があった。今後の日本市場での展開に期待を見せる。併せて、HD カメラ2台、多様な解像度、5Mbps までの帯域(LifeSize Room)などをサポートした LifeSize 製ビデオ会議端末用のソフトウェアバージョン 2.5 を紹介。Codian 社の MCU は、LifeSize や他の HD 対応ビデオ会議システム混在の多地点接続に

対応している。

>プリンストンテクノロジー株式会社

プリンストンテクノロジー株式会社(東京都千代田区)は、ポリコム社のビデオ会議システムや音声会議システム、また DST Media 社の多地点接続装置などビデオ会議のソリューションを多数展示。HD 対応した Polycom HDX 9000 シリーズをブース前面に配置しHDビデオ会議を大きくPR。ブースセミナーでも HD ビデオ会議のデモやポリコムジャパン代表取締役社長奥田智巳氏の講演も行われ、ポリコム社の今後の戦略などが発表された。



>プレミア グローバル サービス/プレミア コンファレンシング株式会社



プレミア グローバル サービス/プレミアコンファレンシング

株式会社(東京都中央区)は、グローバルに電話会議、Web 会議サービスを展開する米大手プレミア グローバルサービスの日本法人。米本社はニューヨーク証券取引所上場企業。同社がワールドワイドに提供する会議サービスの規模は、出席者5名から3,000名まで対応し、電話会議や Web 会議は年間 500 万回以上、会議通話は時間にして年間約 20 億分以上提供している。

>丸紅テレコム株式会社



丸紅テレコム株式会社(東京都千代田区)は、Codian の多地点接続装置「Codian MCU 4200」、「Codian MCU 4500」、TANDBERGとソニーのビデオ会議システムを展示。Codian

社の多地点接続装置は、主要なビデオ会議システムメーカーの端末をサポートしている。Codian MCU 4500 は、TANDBERG、ソニー、ポリコム、LifeSize 各社のHDビデオ会議端末混在の多地点会議が可能。「当社はビデオ会議、ウェブ会議、電話会議など遠隔会議システムやそれらと AV 機器システムを組み合わせた提案から導入、そしてその後のサポートまでトータルに対応している。」(丸紅テレコム)

(終わり)

編集後記

日々CNA レポートジャパンへのご協力、ご支援ありがとうございます。今号もお読みいただきましてありがとうございました。

また次号も宜しくお願い致します。

CNAレポート・ジャパン 代表 橋本啓介